

# 第2次黒部総合振興計画審議会

## 第1回第3部会【都市基盤】

### 議事概要

日時：平成28年12月1日（木）14:00～15:55

場所：黒部市役所 202～203 会議室

出席者：委員4名（欠席2名）、専門委員2名（欠席なし）

幹事3名（欠席1名）、計画主任7名（欠席なし）、事務局4名

#### 議題（主旨）

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）計画策定に係るこれまでの経過について
  - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
  - （1）第1次総合振興計画の成果について
  - （2）施策の現状・課題及び施策推進の方針等について
  - （3）施策体系（まちづくり方針・施策区分等）について
5. 閉会

### 主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

#### 部会長あいさつ

○部会長：本日の部会にご出席いただき感謝する。第1回審議会では基本構想、基本計画の諮問を受け、スケジュールを確認した。また、将来像については、第1次と同様の「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち黒部」で決定した。

本部会では、みなさんの活発な議論により、今後の黒部市におけるまちづくり方針や具体的な施策について意見をいただきたい。

## 報告事項

(これまでの経過、各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

…委員からは特に意見なし

## 協議事項

(資料 3-1、3-2：第 1 次総合振興計画の成果について、事務局より説明)

- A 委員：資料 3-1 の平成 20 年度末で「-」となっている箇所は、どういう意味か。
- 事務局：第 1 次総合振興計画の基本計画は前期と後期で分かれているが、「-」となっている箇所は前期計画に位置づけがなかったものであり、後期に新たに指標として入れ込んだものである。
- 部会長：平成 25 年度の値があれば、進行状況が分かるのではないか。経年変化などは図で示してもらえれば判断しやすい。資料の単独でも判断ができる資料があればよい。
- 事務局：全体会議に配布した資料（参考資料 1）に、年度ごとの数値を入れ込んでいる。こちらも参考にしてもらいたい。
- A 委員：資料 3-1 の P 2 の市道の整備延長や、P 6 の花と緑の銀行黒部支店の地方銀行頭取数は、平成 20 年の値がないが、どの程度の伸びなのかを知りたい。
- 部会長：経緯が分からないと、達成状況が妥当かどうか判断しづらい。
- A 委員：汚水処理施設整備率については、「汚水処理施設の普及率」が適切な表現なのではないか。
- A 委員：資料 3-2 の P 1 の事業 211 に記載のある、ワンコインフリーきっぷは、どのような層に利用されているのかを説明してほしい。また、P 4 の事業 246 に、「給水人口や排水量の増加に備え…」とあるが、今後の人口減少が想定される中、上水道や簡易水道は増加する見込みなのか。また P 5 の事業 259 について、下水道計画区域内において、合併処理槽を設置することが適切なのか。
- 事務局：資料 3-2 のワンコインフリー切符については、土日・祝日の市内の地鉄やバスに 500 円で乗り放題となる切符であり、利用者は通勤ではなく、休みの日の家族連れの利用がほとんどあり、宇奈月温泉へ行き、帰りにビール館に寄るなどの移動に活用されている。利用層は、市民が主に利用しているようである。
- 上下水道部長：P 4 の給水人口については、資料 3-1 の P 4 にあるように、上水道の普及率は現在まだ 67.6%程度にとどまっている状況にある。そのため、今後給水量を確保したいという意味である。

- 経営課長：P 5については、下水道計画区域外の合併処理浄化槽の整備には国県等の補助があるが、下水道計画区域内においても、2年以内に整備が見込めないものは市の単独補助として実施している。
- 事務局：汚水処理施設整備率については、第1次計画ではこのような表記となっているが、第2次計画の策定に向け、表現は今後検討したい。
- 部会長：利便性向上の推進などは、市民アンケートからは不満に思われているようであるが、実際、どのようなルートでどの程度の利用率があるのかについて、現状や対策について結論づけたのか。
- 事務局：現在、公共交通戦略会議において、データを公表し、対策を練っているところである。方向性の結論はまだ出ていないが、新幹線開業後、市内のバス路線の充実などに向けて動いている状況である。
- 部会長：会議の進捗状況については、本部会にフィードバックして欲しい。
- B委員：コミュニティバスの利用者は増えているのか。
- 事務局：増えている訳ではない。低いレベルで横這いの状況である。
- C委員：公共交通の利用状況については、私も携わってきた経緯があるので、私も承知している。利用状況としては、事務局が提示したような結果で間違いのないと思う。
- D委員：公共交通の利用は落ちている訳ではない。今後、住民の意見を聞いて整備していくこともあるが、どう利用してもらうかを検討していかなければならない。
- B委員：今後超高齢社会を迎えるにあたって、コミュニティバスは必要である。ただし道路状況が悪く、バスに乗れないバス停もある。個人的に危険な箇所については反射鏡を設置させていただいたこともあったが、他の工事の際に反射鏡を撤去することになった。その後行政へと対策をお願いもしたが、反応は今ひとつであった。行政と民間が手を携えて進めていくのは、今は難しいが、今後は円滑になってほしい。利用者が降雨時に乗り降りできる場所に停留所があるか、などの視点が必要である。
- E委員：どういうところが需要が高いのか、必要なところに走らせるとすると、ルートやダイヤなどの設定のためのニーズ調査も必要だと思う。
- 部会長：結果がどうだったのかを把握することが、次の施策立案の手がかりにつながるので、指標の変化をどのように理解すればよいのかを今後十分に説明してもらいたい。

(資料4：施策の現状・課題及び施策推進の方針等について、事務局より説明)

- C委員：北陸新幹線の整備に関して、黒部宇奈月温泉駅の東口の利便性が非常に悪く、西口の利用が多い状態である。駅東口のロータリーは、観光バスは利用できる

ものの、旅館の送迎バスや個人利用者などは利用できない状態であり、地铁の駐車場に停めて道路を横断している状態である。第2次計画の期間においては、利用者がスムーズに利用できるような駅前にすべきではないかと考えている。道路整備については、背骨道路の延伸については、県の施策ではあるが、8号から下流についても、この計画に入れるべきである。海から山までということで、生地から山までを縦貫できる道路計画としてもらいたい。

- 都市建設部長：駅の東口（ロータリー）については、様々な方から賑わいづくりのためにも利用形態を見直してほしいとの要望が出ており、今年度から社会実験として観光バスをロータリーに入れている。それらの実験結果を見極めた上で、見直しも検討していきたい。

背骨道路の延伸については、山側は県で計画を進めていただいている。今後の平野部から海にかけての延伸についてであるが、総合振興計画は実行性も重要視しているため、構想段階であるこの道路を計画にどのように位置づければよいかは今後検討したい。

- A委員：最終的にどの道路を整備するのかはご提示いただけるのか。
- 事務局：個別の事業については、事業メニューのさらに下に個別事業を設定させてもらう。今回は体系についてまでのご議論をいただきたい。個別の事業は、実施計画で扱うこととなるので、次回以降に議論いただく予定である。
- 部会長：どの道路が利用され、どう改善を見込むのかなど、地図などを提示して説明いただくとわかりやすい。
- C委員：下水道については、これまでは100%市で管理すると聞いていたが、現在は87%の普及率と説明を受けた。計画的にもう少し早くできる方策はなかったのか。整備の最終年度は、以前は決められていたと記憶している。先ほど説明のあった合併浄化槽の補助についても、公共下水道が整備されれば、この問題は解消すると思う。
- 上下水道部長：下水道普及率が現在は87%であるが、公共下水道で62.3%、農業集落排水で24.8%が黒部市内の整備状況である。下水道事業における管路の事業認可は85%の進捗率であり、事業認可区域については平成32年度を目標として事業を進めているが、国県等の補助の絡みもあるため、市だけで目標年次を明確にすることは難しい。事業認可されていない区域については、できるだけ早く整備したいと思っはいるが、概ね平成40年度頃を目標としている。
- B委員：合併処理浄化槽について、もう少し詳細に説明いただきたい。
- 上下水道部長：合併処理浄化槽も、国県等の補助金を導入して整備している。平成32年度の達成目標100%は、あくまで事業認可区域のことである。
- C委員：事業認可していない箇所は何%なのか。
- 上下水道部長：延長18.5kmとなっている。

- C委員：黒部市内の戸数は約 15,000 戸であり、黒部市民は平等な生活を送る権利がある。ぜひ第2次計画の期間内で終わらせるように進めてもらいたい。
- 上下水道部長：ご指摘はもっともである。少しでも早く下水道事業が終わるように努めたい。
- D委員：アンケートでは交通が不便という回答が多かったが、便利になれば資金をどれだけでもつぎ込める訳ではない。マイカーは便利だが乗らないと廃線となる、という認識を市民が持ち、利用に協力することも必要なのかもしれない。本計画では、そういった内容も盛り込んでいくことも必要なのではないか。
- 部会長：公共交通の社会実験を進めるべきだと思う。また、現在あるコミュニティ施設がどう利用されているかを早いうちから検討すべきである。
- E委員：市街地・住宅整備について、黒部市では農村地域、住宅地域が混在している状況もあり、土地利用という視点から、区画整理も進められているし、農地については土地改良が進められており、総合的な土地利用計画を（黒部市で現在策定されているかは分からないが）、検討すべきではないかと思う。
- 部会長：私は富山県や大阪の吹田市などで景観審議会に携わっているが、まず全体のビジョンを策定し、次に各集落をどうするかを検討を行うなど、段階を追って進めていくことも必要と考える。
- 事務局：全体的な土地利用については、基本構想の中で、土地利用の方針や拠点の設定などを次回提示できればと思っている。
- 都市建設部長：本市では都市計画区域を設定し、その中で地域を設定し、居住環境の向上という形で、用途地域へと誘導できるような方策を、都市計画マスタープランを中心に進めている。
- 部会長：資料4のP3においてコンパクトシティ化をうたっており、市民の意見も強い。しっかりと計画的なゾーンづくりを進めてもらいたい。
- B委員：地鉄の線路沿いのパッシブタウン近くのトイレについては、誰が利用するのか。
- 都市建設部長：市で設置した公衆トイレである。歩行者や車で来た人を対象としている。
- B委員：電鉄黒部駅と東三日市駅間の短い距離の間に新しい駅をつくれば、トイレも利用してもらえるのではないか。電鉄黒部駅と東三日市駅をひとつにし、パッシブタウンの利用者に活用してもらえればコンパクトシティ化にも役立つ。そこに予算をつけるべきである。市全体にお金を落とすよりも、市役所を中心にまちを発展していく意思が見えればよい。
- 部会長：平等という観点も大事だが、富山のライトレールについても、市全域での効果は見込めないが、富山市や富山県全体のイメージアップが図られている。新市庁舎を中心とした、見えるコンパクトシティ化を進めてもらいたい。

- A委員：資料4のP1の事業メニューについて、駅周辺整備事業などしかなく、少し寂しい。また、重点項目に○がついていないが。
- B委員：旅館のバスが利用するときには、県道を横断しなければならず危険である。
- 都市建設部長：旅館の送迎は、最寄りの駅になる。宇奈月温泉の最寄りの駅は地鉄の宇奈月駅という認識であり、黒部宇奈月温泉駅の東口ロータリーは「最寄りの駅」に該当しないとの認識でこれまで来た。現在実施している社会実験の中では、緑ナンバーの観光バスをロータリーの中に入れていた。今後は国とも相談していくが、ロータリーの中に入れる車の対象を、送迎車にも拡大していくかは今後検討したい。
- D委員：旅館が最寄りの駅に送迎する際には、最寄りの駅という言葉の定義が、大きい意味で理解されれば、黒部宇奈月温泉駅が利用されているのかもしれない。至れり尽くせりの整備を行うと、逆に公共交通が利用されなくなってしまうため悩ましい。宇奈月温泉で泊まる人は黒部宇奈月温泉駅まで送迎され、結果として地鉄を利用しなくなってしまう可能性がある。
- C委員：地鉄の乗降客も増えており、送迎されている人とは別に考えてもよいのではないか。
- D委員：利便性と利用促進のバランスが一番良いのはどこなのかを模索していくことが必要ではないか。また、利便性と住民の安全性を確保していくことも必要である。
- 部会長：道路を渡らなければならない構造は、大事故につながる可能性がある。
- E委員：観光客からすれば、最寄り駅は黒部宇奈月温泉駅と感ずるのではないか。
- B委員：宇奈月温泉駅は、バリアフリー化がなされていない。
- 事務局：来年度エレベーターをつける予定である。
- A委員：駅周辺の土地利用について、どうなっているのか。計画はあるが上手くいっていないのか、新たな施策があるのか。また、道路の長寿命化とあるが、道路だけでなく上水道や公園なども対象とすべきではないか。P5の汚水処理施設は維持管理でPFIや汚泥有効活用など良い事業に取り組んでおり、継続して欲しいと思う。「下水道施設の維持管理」という表現になるのかもしれないが、今後、そうしたことが分かるように記載してもらいたい。
- 都市建設部長：黒部宇奈月温泉駅周辺の土地利用については、当時の計画としては、新駅周辺を都市化する訳ではなかった。ただ駅周辺の賑わいについては、商業機能が出てきてくれればと思っている。そのため現在、商業機能が進出できるエリアとしての条件は整えている。
- 部会長：新高岡駅はイオンがあるが、そういったことは黒部ではないのか。
- E委員：そもそも黒部宇奈月温泉駅周辺（背骨道路）では開発ができないのではなかったか。

- C委員：駅前は農振除外しているので開発は可能。地鉄の南側も100mは農振除外している。ただし開発は行政ではなく、あくまで民間ベースが原則である。
- C委員：飲食できる場所が無いのが困る。
- 上下水道部長：水道施設については、管路は耐用年数である40年を超えているものがあり、計画的に順次更新を進めている。下水道は50年耐用年数であるが整備後20数年しか経っておらず、現段階では更新は不必要である。ただ老朽化が進む前の対応も検討する必要がある。更新はPFI事業で進めている、公共下水道の汚泥処理もPFI事業として進めたい。
- A委員：既存ストックの長寿命化については、道路のみではなく、上水道にもその表現は必要なのではないか。
- 部会長：公園についても長寿命化は不要なのか。
- 計画主任：それらの施設は老朽化が進んでいるものもあるため、公園も含め、長寿命化の表現は必要と考える。

(資料5：施策体系について、事務局より説明)

- 部会長：施策区分については、優先順位があるべきではないか。①～⑥の番号がついているが、③の市街地・住宅の整備については、④⑤の上下水道よりも下位でも良いのではないか。
- E委員：3Pの「新市」の表現が残っているが。
- 事務局：3Pの赤字については、第1次計画の体系となっている。
- A委員：前は重点の○があったが、今回は取り扱わないのか。
- 事務局：重点事業については、今回の部会で検討いただく予定としている。
- A委員：四角で囲ったところ(リード文)について、「美しい街並み形成」「景観形成」が全面に出すぎているのではないか。景観ならば景観条例や高岡市の金屋の街並み、屋外広告物条例などが想定される。まずは公共交通や道路が最初に来るべきではないか。また、表現の重複もあるのではないか。
- 部会長：リード文は、もっとクリアにすることも必要。景観については、様々な基盤整備をする中で景観にも配慮する、という考え方は分かるが、やや目立つように思われる。何を優先しなければならぬのかを本部会で明確にすべき。  
6項目は並列ではない。また、6項目に共通している、維持管理や長寿命化、バリアフリーなどが互いに関わっている部分であり、相互関係を整理した体系とするべきである。  
新しく追加されたものとして、道の駅の整備促進と道路ストックの長寿命化が挙げられているが、道路以外にも長寿命化は必要であり、今回の部会の意見を踏まえ、他

の公共施設にも追加されるという認識でよいか。一方でメニューがたくさんあるとごちゃごちゃしてしまうので、あまり重要視していないものについては思い切って発展的解消を行うものもあるのではないか。

- 事務局：事業メニューの中で、何も実施しないものはないため削除はできない。そうした場合、他の場所にいれなければならないため、かえって分かりにくくなる。
- 部会長：それならば、施策の中分類をもう少し細分化してもよいのでは。
- C委員：事業メニューは増やしてもよいかと思うが、体系としてはこのような感じでよいのでは。
- B委員：あいまいな表現としておき、事業メニューで網羅すればよいのでは。
- 部会長：バリアフリー化がなくなっているように見えるが、事業メニューに入れた方がよい。9月の審議会でも超高齢化に関する意見があった。キーワードとしてどこかに入れる必要があるのでは。
- D委員：事業メニューに書いてある内容は、見出しとなるイメージと思われるので、あまり細かくする必要はないのではないか。これくらいの細かさでも良いのでは。
- E委員：生活道路整備事業について、他の市町村と比べると、黒部市は市道の数が少ないのではないか。

## 閉会

- 事務局：次回の第2回第3部会は、1月27日（金）10:00より行う。

以上